

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196200057		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム鶴ヶ島		
所在地	埼玉県鶴ヶ島市上広谷652-2		
自己評価作成日	令和 3年 1月24日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 3年 2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者についてはご家族様を含め、その方の終末期までの責任を負うという覚悟を持ち、対応しています。看取り対応は自然なことであり、職員は積極的に学ぶ姿勢が確立しています。コロナ禍で職員の不安やストレスは常にありますが、やりがいを感じることで果敢に業務に携わっています。現状、会議等や地域交流という点では出来ないことが多くありますが、今までに築き上げてきた信頼関係は継続していると思います。外出・面会制限など、入居者のストレスも小さくありません。コロナウイルス感染予防ということを念頭に置き、今、自分たちが出来ることを、出来る限り行っていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、家族の協力と、終末期を含め利用者の変化への気づきが早い職員に対し感謝の思いがある。コロナ禍のため、現在は家族会を中止しているが、新型コロナウイルス感染流行前は、年4回の開催時の出席率が7割と高く、家族を含めての一体感のあるホームと言える。また、コロナ禍において、今、出来ることとしての「ミニ行事」がある。居室担当者が、「どんなものが食べたい?」と話し掛け、あんみつやプリンアラモード等好きなおやつを買ってきて、部屋で一緒に食べながら過ごす個別対応であり、利用者に喜ばれている。看取り対応でも、職員を含め対応力の向上を図っている。看取り期を迎える人が居れば、今後の変化予想を確認し、フローチャートを作り心配事を消して行くこととしている。職員の積極的な姿勢が、自信にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、各ユニットの見やすい位置に掲示し、いつでも確認できるようにしている。朝礼時に参加者全員で唱和し、理念に基づき実践することで、入居者の満足へつなげています。	事業所理念は、皆で出し合った意見から作っており「笑顔で楽しく暮らす」をモットーとしている。理念の徹底を図り、コロナ禍でも、毎日楽しく暮らせている。各ユニットに掲示し周知されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止のため、昨年2月から面会制限となり、運営推進会議も開催出来ない状況ですが、挨拶や情報交換はしており、地域の一員として認めていただけていると考えます。	コロナ禍で制限はあるが、回覧板が回り地域の情報は掴んでいる。庭続きの隣家の人から心配してもらったり情報を聞くこともある。交流のあった児童館の児童へは、手を振ったり声掛けをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所ロビー等にグループホームの特性を示したポスターの掲示をしたり、介護保険相談等の窓口として取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍のため、運営推進会議は出来ておりません。日常の様子を写真に撮ったり、現場の状況を議事録として残しております。	市と相談し、議事録を以ての書面開催として、いつでも閲覧・開示出来るようにしている。行政へは入居状況報告としてメールにて返信している。運営概況や取り組み内容が主題であり家族へは他にコロナに関する別報告書を添え、月次便りと共に送付している。	コロナ終息を待って、参加委員の拡大に努めたい。市役所担当者以外に、自治会等からの参加も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールにて最新の情報共有したり、鶴ヶ島市役所より、定期的にマスクやグローブ、消毒液の配布をいただいております。良好な関係が継続しています。	行政報告等は窓口で報告しており、情報交流はある。市役所の会議室でグループホーム部会があり、6事業所と社協も参加しているが、現在はリモート会議となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言に基づき、定期的に身体拘束廃止検討委員会を開催し、職員に周知し、常に意識するように心掛けています。	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、併せて動画を使つての勉強会を実施している。各ユニットにタブレットPCを備え、全職員が見ることができる。ドラッグロックでは、イライラを取り除くための薬に頼らない接し方を学んだ。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	各種報道やニュースに関心を持ち、随時カンファレンスを行い、検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が成年後見制度の対象者です。後見人の社会福祉協議会と毎月情報交換を行い、随時連絡をとりあっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては出来る限りわかりやすく丁寧に説明することを心掛けています。入居前はご本人だけでなく、家族の心配や不安も大きいため、出来るだけ心配・不安を解消し入居されるように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者はいつでも職員に対し意見・要望が表出できるよう、職員には訴えを傾聴するように指導しています。ご家族とは面会時に情報交換を行い、その都度、指摘等があれば速やかに対応しています。	定期的に管理者から家族へ電話をしており、生活の様子や意見を伺うようにしている。面会したいとの希望へはリモート面会を提案し、日中の様子を知りたい人へは、月次便りに写真を添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝の申し送りを行い、必要時にカンファレンスも行っています。毎月各フロア毎のカンファレンス、合同会議を開催し、意見や要望・提案を受ける場としています。	全体会議やユニット会議で意見を聞いている他、年2回の個別面談でも話し合うようにしている。掃除用モップの消毒に伴う扱いや、洗濯用竿の追加購入等の意見を取り入れ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回、考課表を用いて個々の取り組み姿勢や勤務状況を把握し、管理者として評価を行っています。賞与時には個々に面談を行っています。各職員の能力や人柄に合わせた声掛けや業務配置を心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Web配信による研修材料を各職員がいつでも閲覧できる環境の整備を行っています。その中で疑問に思うことや意見を取り込み、各職員が学習出来る機会としています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業多種と情報交換(空床状況等)を行い、また、作品展への出展やリモート会議を通じて交流を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学時に不安や要望等を確認し、把握した上で入居申し込みや事前訪問を行い、入居環境を整えるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族はどう考えているのか、どうしたいのか、心配や不安、要望等を傾聴し、対応するようにしています。環境の変化が一番の心配の場合が多いため、職員も一緒に考え、対応する姿勢をとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向も含めて検討し、アセスメントを行い、必要なサービスの見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残存機能を生かし、出来ることはやっていただくようにしています。各入居者に見合った役割分担を誘導し、職員と一緒に生活する家族のような関係で、見守りながら生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が、入居後も以前からの関係性を継続出来るようにしています。面会制限はあるものの、定期的な受診の際の付き添い対応や、家族来所時には情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者の思い出話や、過去の話は傾聴するようにしています。現在はコロナ禍であり自由にならないこともありますが、出来るだけ安全を考慮した上で面会の場を設けたり、電話やリモート面会を活用し、関係が途切れないように努めています。	コロナ禍で玄関から外へ出ることは制限している。知人の来訪もあるがお断りしており、電話や手紙での交流はある。ピアノ演奏の好きな人には、特技披露で弾いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを超えての入居者間関係性があります。入居者が自由に空間を利用し、孤立することなく過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、基本、看取り対応までとなっており、死亡退去の場合は看取り後のカンファを開催し、残された家族へ職員からのメッセージを届けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向を聞けるような環境作り、対話方法を工夫するよう努めている。職員間でも話し合いをしている。	10年を超える勤続社員も多く、寄り添ったの対話がある。実態調査での生活歴を知る他、入居後に分かる性格や癖を掴み、気になったこと等は記録に残しユニットカンファで周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報提供を元に、フェイスシートの見直しと共に本人との対話の中で少しずつ細かい生活歴や生活環境をひもといていくことに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日二回のバイタル測定、食事や排泄の記録、経過観察記録、日常生活記録等を職員間で共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の要望を伺い、日々の様子について月一回のケアカンファレンスにて職員間で話し合い、ご本人のニーズに沿ったケアプランを作成し、定期的に評価している。	3ヶ月毎に月次のカンファレンスで見直しをしている。カンファレンスの前には、居室担当者を含む職員に現プランへの意見を貰い、本プランを作っている。鍼灸師や訪問看護師の意見も反映する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きや変化はその都度話し合い経過記録に残しており、職員間で常に共有出来ている。新しいケアの取り組みを行ったり往診医や家族にも相談している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人一人が持つ経験値を活かして様々な支援の情報を共有している。また、地域の情報も取り入れ、施設以外での交流も積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や市内の催事に参加している。コロナ禍での感染対策により、オンラインでのイベントの参加も楽しめるよう雰囲気作りにも配慮し、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を大切に、適切な医療を受けられるようかかりつけ医を選択して頂けるよう支援している。変更する場合には医療機関の間に入り情報提供がスムーズに行われるよう支援している。	現在は、全員が訪問診療を利用しており、月に2回の来訪がある。訪問看護師と歯科医は、毎週の来訪がある他、整形外科他へは家族にお願いしている。訪問医とは24時間連絡が取れる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護には日々の変化や情報を細かく伝え、相談している。訪問看護からの意見等は往診医にも伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院には看護・介護サマリーの提供などで情報交換している。入院時には出来る限り面会に赴き様子観察し病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期に入ったときは早い段階から往診医の診察を仰ぎ、家族と話し合いの場を持っている。事業所で出来ることを職員間で共有し看取りの取り組みや研修を行っている。	重度化指針を説明し、看取りについては昨年からの対応力を上げており、昨年は2名を看取っている。提携医、家族、介護支援専門員を含め早めの相談機会を作っており、起こることを予想して方針を決めている。職員向けのフローチャートもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、常に確認できる体制をとっている。急変時に持参する書類等はまとめてあり、全職員が対応できるよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成している。年二回の消防署立会いの下、訓練しているが、本年は中止となったため、自主訓練として消火・通報・避難訓練を行っている。	年2回の避難訓練は、夜間想定も含め自主訓練とした。火災・地震マニュアルと水害・土砂災害マニュアルがあり、備蓄品も駐車場内備蓄庫に毛布や衣料品を含めて保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し声掛けの際には自尊心やプライバシー保護に努め、入居者の立場に立って対応しています。排泄介助時は他者から目に入らないように配慮し必ず戸を閉めるなどして行っています。	入居時に個人情報保護を書面で確認しており、職員に対しても同様配慮はある。権利擁護の勉強会もおこなっており、利用者目線にたつての対応を必須とし、スローガンを相談室と事務室内に掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現がうまく出来ない入居者には行動、仕草、表情から何を伝えたいのかをくみ取り、気付けるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならないように入居者を第一とし、入居者のペースや生活リズムを崩さないようにやりたい事への支援をしています。入居者に応じ、一日の流れを説明し安心した生活が送れるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内での行事を企画し、季節に合わせた衣装や、お化粧をして頂き、四季を感じて頂けるよう支援しています。二ヶ月に一度の訪問理美容を実施し、入居者が求められるヘアスタイルを美容師の方と相談しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に応じたおやつを提供を月に一度行っています。また月に一度、別の企画として職員がおやつ作りの場を提供し入居者との共同作業で「食」を楽しめるよう実施しています。	小鉢への盛付や配下膳等に利用者の手伝いはある。メニューとカロリーは委託先で季節感も含め考えてくれている。おやつレクでは、白玉団子や桜餅を一緒に作り喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ食事形態を変え提供しています。水分摂取も個々に合わせてお好みの飲み物を伺い、摂取出来るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯を洗浄し清潔が保てるよう支援しています。週一回の訪問歯科を利用し、口腔内の状態が悪化しないように職員でも出来る口腔ケアのやり方等、アドバイスを受け実行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、表情や行動から読み取り、円滑な介助を支援している。尿意・便意が伝えられない入居者には定期的にトイレ誘導を行い、身体を清潔に保つように努めています。	排泄チェックは記録システムを使い、各ユニットに1台備えているタブレットPCで管理している。夜間オムツ使用の人へも排泄誘導することもある。退院後、1週間でオムツからリハビリパンツへ切り替えた例はある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す為に下剤を服用する前に野菜ジュース等を提供したり、当日の体調を考えて声掛けトイレ誘導をしたり、腹部マッサージをして快便になるように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の羞恥心を考えて希望に応じて同性介助、異性介助に努めています。また、入居者が出来ること、難しいことを考えて入浴介助を行っています。	3日に1回とし、3人毎の入浴としている。ゆっくり入ってもらうために午前浴2名、午後浴1名としている。同性介助を求める人へは意向に沿い、自宅で使っていたシャンプーやタオルへのこだわりもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いすの入居者が座位が長くなり、負担が掛からないように居室で横になり、休息を取っていただいております。レク活動として童謡体操や合唱などして身体を動かして安眠出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、変更された薬は直ぐに確認して職員間にて共有を行っています。また、体調変化が無いかと注意深く観察して体調管理に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴より得意なことに着目して、生活や活動をして頂いております。この活動を通じて、生き甲斐を感じて、誇りをもって生活出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍で外出自粛や面会制限等もあるため、リモート面会を利用して実施しています。離れていてもお互いの顔を見て話し合いが出来る機会を設けています。コロナが終息したら、皆で花見や散歩に出掛けるようにしたいと思っています。	コロナ禍で、散歩やドライブ等にも制限を設けている。身体を動かす目的から朝の体操と午後は椅子に座っての体操を取り入れている。駐車場には花壇と椅子があり、外気浴での語らいはある。家族へは、リモート面会の場を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を自己管理し、買い物の際には自身で支払を行っての方もおります。お金を必要とされている方には用意し、お出ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった場合は、施設の電話を使用したり、リモート面会等を実施しています。入居者への手紙は届き次第、ご本人にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の行事や写真を掲示しています。居室はご本人の生活で使用した物を置いていただき、気持ちよく過ごせるようにして頂いています。	感染予防対策として、換気は1時間置き、手摺の消毒や次亜塩素酸使用の大型フロア加湿器等の環境整備がある。利用者と一緒に折紙や切り絵で桜の飾りを作成している。利用者が使える掃除機を用意しており、ゴミを捨てる人もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、気持ちよく生活出来るよう、席替えをしたり、ソファを置くなどして雰囲気作りを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の生活の継続を施設でもして頂けるよう、馴染みのものを持参して頂いています。居室には仏壇やタンス等を持参する方もおり、今までと同じように生活して頂く工夫をしています。	加湿器や洗面台に濡れタオルを置く工夫もある。エアコンと洗面台、クローゼットがあり、他は使い慣れた物を持込んでいる。仲間を呼んでお茶をする人は、居室の畳敷き空間を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足台や手摺、車イス、シルバーカーでの移動にも可能なスペースを確保しています。		